

7月24日 AM6:30 豊科駅北、県安曇野庁舎駐車場に、参加者11名が集合。3台の車に乗り合わせ、一ノ沢登山口へ向う。AM7:30 登山口から一列縦列で登山開始。上空は晴れて山の稜線が望まれる。登山口から10分、樹齢400年の椴ノ木を祀る「山の神」で手を合わせ、登山の安全を祈願する。ここから溪流左岸沿いの森林帯の中、ウグイス、コマドリが鳴く、緩やかな登りの登山道を進む。



溪流左岸沿いの森林帯を行く



クルマユリ



ゴゼンタチバナ



残雪を眼下に山腹の巻き道を辿る

2時間程で、一ノ沢支流が合流する河原に登り出る。ここで小休止後、一旦対岸に渡り急坂を20分登り、再び左岸に戻ると一ノ沢上流を埋める残雪に出会う。溶けて落ちる雫に、一服の涼を感じさせる。オオバギボウシ、クルマユリの咲く山腹の巻き道を辿ると、AM11:00 最後の水場に到着する。ここから森林帯の中、ひたすら胸突き八丁の急坂を登る。第一、第二ベンチで休憩しながら高度を上げると、木々の枝越しに前方空高く、豪快に聳える常念岳の姿が望まれる。PM12:30 常念乗越に登り出る。眼前に大きく天を突く槍穂高の峰々を望み、皆歓声をあげる。



穂高岳を背景に横通岳へ向う

ハクサン  
シャクナゲ

チシマグキョウ



常念岳の堂々とした雄姿

常念小屋で昼食後、PM1:45 軽荷で、北に聳える横通岳へ向かう。低木帯を登り出ると展望が開け、振り返ると三角推形状した常念岳がひと際高く堂々と聳えている。中腹から花崗岩の白砂礫帯のジグザグ路を登ると、高山植物の女王コマクサの群落に出会う。PM3:00 横通岳 2767mに全員登頂。山頂からは、北に大天井岳、燕岳が大きく望まれ、東方向、山裾の遙か眼下に安曇野の平が広がっている。穏やかな午後の陽射しを浴びて、山頂の憩いを楽しむ。PM4:15 常念小屋に戻り、泊す。



花崗岩石の急傾斜の岩道を登る



雲海の彼方に富士山、南アルプスを望む



山頂に見事登頂「バンザーイ！」

25日東の雲海から太陽が昇り、山の朝を迎える。西方に連なる槍、穂高岳の稜線が橙色に照らし出されていく。AM6:30 軽荷で常念岳山頂を目指す。花崗岩石がゴロゴロと積み重なった、急傾斜の登山道を登る。強い西風の為か、低木の岳樺が東に傾斜し、岩陰にミヤマダイコンソウの黄花が所々に咲いている。積み重なった花崗岩石を登りきると、AM8:00 祠の建つ頂に全員登頂する。「バンザーイ！」。

頂からは、360°の大展望、輝く雲海の彼方に富士山、南アルプスが望まれ、南西方向、涸沢の雪渓を囲むように穂高岳の峰々が重厚に聳え連なっている。45分程その喜びに浸り、AM10:00 常念小屋に引き返す。小屋内では、槍ヶ岳を望む特設ベランダで、熱いコーヒーを啜り、至福のひと時を過ごす。AM10:45 お世話になった常念小屋に別れ告げ、下山を開始する。



重厚に聳え連なる、穂高岳 3000m級の峰々



山稜に咲くミヤマダイコンソウと槍ヶ岳

順調な下りを続け、途中昼食を摂り、PM2:45 登山口に到着。往路と同じように車に乗り合わせ、参加者の車の待つ県安曇野庁舎駐車場に向かい解散とした。「安曇野の美しい金字塔常念岳、その頂を目指し、自らの足で立つことができた、その喜びを教えてくれた登山だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則